

## 1 概要

○日時：令和元年 11 月 29 日（金）13:15～15:00

○場所：1C 教室

○協議会司会：沢井郁先生

○授業者：浅利絵里子先生

○参加者（授業者以外）：

JICA 清水様、JICA 野口様、五城目中八柳先生、土崎中鎌田先生、バリアフリー藤本様、沢井先生、山城先生、白沢先生、一ノ関先生、藤田先生、松永先生、片桐浩司先生

○記録者：片桐浩司先生

## 2 授業者（浅利絵里子先生）から

・JICA 教員海外研修（タンザニア）での学びを生かした授業を実践する。生物基礎の免疫の単元において AIDS の基本的な知識は伝えている。この授業を通じて、海外の生徒の価値観のちがいを（とくに幸せに対する価値観）について生徒に伝えたい。

・授業をおこなう 1 年 C 組は明瞭快活な生徒が多く、発問や課題に対して積極的に取り組もうという姿勢がある。科学現象に対する興味関心が高い。

## 3 グループ協議報告

**A グループ（白沢先生、松永先生、JICA 清水様、片桐浩司先生）**

**発表：白沢先生**

○良かった点

- ・良い雰囲気での授業が展開されており、教師と生徒との信頼性の高さが伺える。
- ・AIDS というテーマをあつかった素材やその紹介に用いた教材がわかりやすくよかった。

○改善すべき点

- ・内容が盛り沢山であり、予定通り進行できなかった。時間配分に工夫が必要。
- ・生徒の意見交換や意見を共有する場を設定すると良かった。

**B グループ（山城先生、沢井先生、五城目中八柳先生、JICA 野口様）**

**発表：山城先生**

○良かった点

- ・生徒の動かし方が的確であった。
- ・アフリカの人々の収入やトイレ事情など、生徒を引きつけるような発問がなされていた。

○改善すべき点

- ・あつかう項目が多く、目標が焦点化できていない場面がみられた。

**C グループ（一ノ関先生、藤田先生、土崎中鎌田先生、バリアフリー藤本様）**

**発表：一ノ関先生**

○良かった点

- ・タンザニアでの感動や熱意が伝わってくる授業であった。
- ・通常の生物基礎の授業のなかで「人々の幸せとは？」を考える場面は少なく、今後、他教科との連携（地歴・公民など）も可能で発展性のあるテーマである。
- ・生徒に理由を説明させ、板書させるなど、生徒の動かし方が的確であった。

○改善すべき点

- ・グラフを活用するなど、科学的な視点を盛り込むとさらに良かった。
- ・ワークショップでの指示の出し方について、もう少し明確であると良かった。

#### 4 JICA 東北清水様より

- ・JICA の海外研修の成果を、実際の学校の授業に持ち込める興味深い事例のひとつであった。
- ・AIDS というとても難しい題材を扱った授業であった。伝えたいことが多く、マトリックスの幅が広がりすぎたために、海外の生徒の価値観のちがいを（とくに幸せに対する価値観）を理解するという目標がわかりにくくなってしまった。
- ・今後、このテーマで授業を行う際には、時間や地域の軸を限定すると良いと思った。

以上